

1997年4月16日

北海道知事 堀達也 殿

企画振興部長

保健環境部長

札幌市中央区北3条西11丁目
可森ビル5階
社団法人 北海道自然保護協会

会長 俵 浩三

印

(TEL 251-5465)

札幌市北区北9条西7丁目
とりかえそう北海道の川実行委員会

代表 小野有五

印

(TEL 706-2220)

札幌市白石区本郷通2丁目南1-1
環境市民連絡会 (旧名称: 札幌市の環境条
例を考える市民連絡会/北海道の環境条例
を考える市民連絡会)

代表 山下泰生

印

(TEL 866-6233)

札幌市中央区南1条東2丁目和興ビル9階
市民ネット北海道

代表 羽田美智代

印

(TEL 219-0112)

緊急要望書

謹啓、報道によると北海道は北海道開発庁の申し出を受けて千歳川放水路問題の打開策を検討する円卓会議構想に応ずる意向を持っていると伝えられています。

そこで緊急に次の諸点について要望するとともに、これに対する北海道としての考えを文書により回答していただきたくおねがいたします。

要 望 事 項

北海道が円卓会議の設置に応ずる前提として次の事項を北海道開発局との間で文書による確認を取り交わすこと。

- 1、千歳川放水路計画を撤回すること。
- 2、計画撤回にともない次の事項を相互に確認すること。
 - (1) 計画基本高水流量を18000トンと設定したことを白紙撤回すること。
 - (2) これまでの道開発局が取り纏めた基本概念、調査結果、各種技術報告書は千歳川放水路計画を前提とするものであるから基礎データを除き白紙に戻し無効として扱うこと。
- 3、円卓会議における主要課題は放水路計画によらない抜本的治水対策の基本構想を確立するためのものであることを相互に確認すること。

要 望 理 由

道開発局は放水路計画を「白紙」とすることに同意すると述べる一方、最終的には放水路計画の実施もあると述べている旨伝えられています。

放水路計画はすでに長期にわたり多くの批判にさらされてきたところであり、計画を白紙とすることは遅きに失したというべきであります。

問題は「白紙」と言いながら放水路計画の実施もあり得ると述べている点であります。

これまでの経過をふりかえれば開発局がこれまで行なってきた、計画基本高水流量の設定、他の代替案に対する調査検討、技術報告書などは「はじめに放水路計画ありき」という前提のもとに集積されてきたものであります。これらの情報が円卓会議で使用されるとすれば、一方的な開発局による放水路計画のための説得の場を提供するに等しくなることは明らかであります。

放水路計画については10数年もの間議論されてきたのであり、もはやその選択肢はないと評価されたというべきであります。円卓会議において放水路計画を視野に入れた議論を継続することは「白紙に戻したうえで放水路計画を蒸し返す」ことであり、10数年以前の議論と同じことをもう一度繰り返すことにほかなりません。

このような事態は治水対策にとっても自然環境の保全にとってもマイナスであります。

以上の理由によりこの要望をするものであります。

敬具